

 施工事例



矢板護岸の前面に「お魚のゆりかご」を配置した事例。「ピオクロス」との組み合わせによりワンドを創出。



「お魚のゆりかご」と「ピオクロス」との組み合わせによりワンドを創出した事例。



魚道改修の際、「お魚のゆりかご」を設置した事例。



「ぎふ証明材」登録事業者番号 第010010号

井納木材株式会社

TEL 0581-34-3111 FAX 0581-34-3888

〒501-1203 岐阜県本巣市文殊678-1

URL <http://www.inomoku.jp>

E-mail soda@inomoku.jp

間伐材を利用した
お魚のゆりかご



CHALLENGE



井納木材株式会社

間伐材を利用した お魚のゆりかご

「そだ」
粗朶とは雑木と呼ばれているものの総称で、榎^{（なら）}・桜・
楓^{（かえで）}などの粘性の強い側枝を使い束ねたものです。

OSAKANA NO YURIKAGO

イノモク
ホームページもご覧ください。 <http://www.inomoku.jp>

明治の初めにオランダ人技師デ・レイケがケレップ水制群を築いた木曽川下流域では、古くから粗朶に魚が棲みつく習性を利用して粗朶漁法が行われてきました。

お魚のゆりかごは、この魚の習性に着目して考案した製品であり、井桁状に組み上げた丸太枠の中に粗朶を組み入れた間伐材利用製品です。

天然素材を利用するため環境にやさしい工法であるとともに、流域の間伐材を利用することから森林の健全な育成に寄与し、環境保全、治水力の向上に繋がる工法です。

特 徴

☆生物の生息環境を形成

コンクリート護岸等、空隙の少ない河川護岸の前面に設置することにより、生物の棲みかを形成することができます。

☆ワンドの創出

ビオクロス（木工沈床ユニット）との組み合わせによりワンドを創出することができ、川の流れに多様性を持たせることができます。

☆多孔質な構造

天然素材を利用していること及び多孔質構造が水生生物の生息空間として最適です。

☆伐採木の有効利用

現地における伐採木を粗朶として有効利用することができます。



設計上の留意点

☆適用流速

単独配置の場合は3.0m/s程度まで。
ビオクロスの中に挟み込むような配置とすれば5.0m/s程度まで。

☆設置状態

常時水中に没しない状態で設置する場合は、いずれは丸太が腐朽することを前提とした設計とする必要があります。

登 録・認 定

☆岐阜県リサイクル製品認定 (NO.199)

製品規格

「粗朶タイプ」と「植生タイプ」の2種類があります。
基本サイズは右表の通りですが、現場の状況に合わせた製品を製作可能です。

粗朶タイプ



植生タイプ



「植生タイプ」は石の代わりに土を利用して重量を確保するタイプです。

現地発生土を利用することにより、植生の回復を図ることができます。

層数	製品サイズ	参考重量	
		粗朶タイプ	植生タイプ
3層	1000×2000×720	220kg	280kg
4層	1000×2000×960	300kg	340kg
	1000×2000×1000	320kg	360kg
5層	1000×2000×1200	350kg	420kg

※参考重量は木材の単位体積重量を500kg/m³として算出した重量です(詰石等の重量は含んでいません)。

